

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2693000081		
法人名	三菱電機ライフサービス(株)		
事業所名	長岡京ケアハートガーデン グループホーム「今里」		
所在地	京都府長岡京市今里畔町21-1		
自己評価作成日	令和 4年 3月 17日	評価結果市町村受理日	令和5年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JkyosyoCd=2693000081-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JkyosyoCd=2693000081-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク一期一会		
所在地	京都市右京区西院久田町5番地		
訪問調査日	令和 4年 3月 26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・利用者が笑顔で暮らせる居場所を作ること理念に、お一人おひとりが自分らしい豊かな暮らしを送って頂けるように工夫を重ねている。  
 ・11年前の開設当初からご利用いただいている方もおられて、言葉で思いを伝える事が難しくなって来られている状況があっても、その方らしく自然に過ごして頂いている。  
 ・利用者の感染予防を優先する中で、はがき・お手紙のやり取りや電話などを利用して、ご家族との限られた時間を大切にできるように取り組んでいる。  
 ・誰もが自分の思いが話せるような関りを大切にして、小さな課題も改善できるように話し合う時間を持つ事を意識している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

長岡京ケアハートガーデン グループホーム「今里」は、2ユニットの施設です。周辺にはのどかな田園風景が広がっています。職員が楽しい雰囲気であることが利用者の笑顔に繋がる、笑顔で関わったことは利用者は忘れないという思いなど「笑顔があふれる暮らしを共に」という理念に基づき、その人らしい生活ができるよう支援に努めています。またコロナ渦において面会等が制限される中でも、年賀状やお手紙のやり取り、電話などで家族をはじめ関係が途切れないようにしながら、利用者にとって限られた時間を大切にできるように取り組んでいます。地域との関わりでは、買い物をする所が少ない地域であることから、事業所敷地内の駐車場に移動スーパーに来てもらい、利用者や地域の方が買い物することで交流できるようにされています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（さくら）

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼で唱和を行う時に、管理者は日々の暮らしの中、職員が関わる様子で感じたエピソードを話して理念へのつながりを伝えている。</li> <li>・理念にある「笑顔」があると暮らしを守るため事への理解を深めて行けるようにしている。</li> </ul>	職員全員で策定した事業所理念「笑顔あふれる暮らしを共に」については、朝礼で唱和を行っている。また、日々の中で、管理者は職員の笑顔が利用者の笑顔に繋がるということを伝え実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週1回移動スーパーが来ることを継続できている。</li> <li>・幼稚園との交流は年末の挨拶などを通じて継続できている。</li> <li>・地域の歯科の先生に訪問診療をお願いしている。</li> </ul>	買い物をする所が少ないことから、事業所敷地内の駐車場に移動スーパーに来てもらい地域の方も買い物をして交流を図っている。コロナ渦において幼稚園との直接の交流は行えていないが年末のあいさつなど継続に努めている。天気の良い日などは公園に散歩に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週水曜日に移動スーパーが来ている事が地域に広がりつつあり、ご近所の方が買い物に来られる事が増えてきている。</li> </ul>		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年通り毎月お会いして開催することはできなかったが、こちらの状況をFAXで送らせて頂いたうえでお電話で情報共有ができていた。</li> <li>・高齢介護課からは地域の状況等のFAX頂く事で、サービスの向上に活かすことができている。</li> </ul>	運営推進会議には、家族代表や近隣代表、行政、地域包括支援センター等の参加があり、活発な意見交換がなされている。コロナ渦において書面が中心にはなっているが、電話やFAXでやりとりをしたり情報共有を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の運営推進会議は、感染の状況を確認して適宜書面での開催をしていた。また書面で開催する時には、FAXをさせて頂くと共にお電話させて頂き情報の共有をさせて頂いていた。</li> </ul>	市担当者とは運営推進会議(コロナ渦において書面が中心)を通じて、取り組みの報告を行っている。また市担当者からは、意見やイベント情報をもらうなど協力関係は良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は「身体拘束虐待予防指針」及び「身体拘束 虐待マニュアル」の研修を受けていることで、周知徹底している。</li> <li>・身体拘束の適正化のための会議を行い、職員にも議事録を回覧することで周知できている。</li> </ul>	「身体拘束虐待予防指針」及び「身体拘束虐待マニュアル」を整備するとともに身体拘束の適正化委員会を設置している。ユニット会議で研修を行い、正しい理解に努めている。日中は玄関の施錠は行っていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・職員はオンラインにて実施されている虐待防止の研修に参加する機会を設けて、ユニット会議での内部研修で共有できている。 ・入浴や更衣時には身体の状況確認を行い、あざ等が見受けられるような時には、職員で原因を話しあい見つけ出しヒヤリハットなどで共有することで再発防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・外部研修に参加することで理解を深めている。 ・家族が後見人となられて制度を利用している方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時に記述内容の説明を具体的に行っている。 ・質問やわかりにくい様子がある時には、事例などを伝えることで理解を頂けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・毎年家族代表を1年交代でお願いしている。その方に運営推進会議に出席頂き、家族の立場からの率直な意見を頂き議題にすることもある。 ・会議の内容を広報誌に掲載している。 ・玄関に意見箱を設置しており、いつでも気軽に意見を頂けるようにしている。	家族(代表)からは、運営推進会議(コロナ渦において書面が中心)で意見をもらっている。面会等制限はあるが来訪時や、家族カンファレンスの際などの機会をとらえ関係づくりに努めている。利用者の意見は、普段の関わりの中で聞き取れるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・事業所として、運営に関する事を反映させるための職場懇談会が開催され、職員の意見を伝える事ができている。 ・管理者は職員の意見や提案を、いつでも話せる関係を意識しており、反映を心がけている。	ユニット会議、リーダー会議を毎月行い、職員の意見や提案が反映できるようにしている。年に1回職員が自己申告した目標をベースに管理者と個別面談を行っている。職員からの意見に対してはアドバイスをしながら時間をかけて対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員それぞれが向上心を持ち働ける環境を作れるよう努めている。 ・職員の家庭の事情などを把握したシフトを作成する等にて、働きやすい環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・新人研修・チューター制度を取り入れている。 ・職員の力量に適した研修に参加できるようにしている。職員の個性を活かして、自信をもって仕事に携われるような環境にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・他の事業所主催の研修を、職員育成に活用させてもらっている。 ・今年度が開催が少なかったが、最近Zoomでの研修もあり参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・家族からの情報をもとに本人とコミュニケーションを取りながら、その方の何気ない言動からの思いを見逃さないように心がけることで、その方らしい生活が継続できるように努めている。 ・不安な様子が伺える時は、こちらから声をかけることで気軽に話せるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・施設見学は玄関から雰囲気を感じて頂けるようにしている。その時にはご家族が困っておられる事柄をひとつひとつ丁寧な関わりの中で誠心誠意応えるように努めている。 ・わかりにくい様子が伺える時は、事例などを交えて説明することで、親しみやすい関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・家族が不安に思っておられる困り事などをゆっくり丁寧に傾聴することで要望を受けとめるように努めている。 ・その要望に対して考えられるサービスの説明を行い必要性のある時は専門的な他社サービスの案内を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員は共に暮らすという思いの中で、ご本人のできる力を尊重して、難しくなってきたところをさりげなく補うような関わりを大切にしている。 ・洗濯たたみなどを手伝って頂いた時なども、感謝の言葉を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会の自粛をお願いしている状況下であり、ご家族からのお手紙や差し入れを職員が預かり渡すようにしている。 ・お預かりする時に利用者の日頃の様子をお伝えすると共に ご家族からの思いもお伺いして、ご本人に伝えるように心がけている。また次回の来後時には、その時の利用者のご様子などをお伝えする等の橋渡しを行い、絆が深まるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご近所であった方や友人からの電話はいつでもお繋ぎしてお話ができるようにしている。</li> <li>・友人と年賀状や手紙の交換を継続されている方もいる。</li> <li>・在宅時のボランティアの方が訪ねて来られることもあり、馴染みの関係が途切れないようにしている。</li> </ul>	<p>コロナ禍においても関係が途切れないように、家族宛に手紙を書いてもらったり、友人に年賀状を送るなどの支援を行っている。また、友人からの電話やボランティアの方の来訪などもあり、なじみの関係継続に努めている。</p>	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合同で行うお誕生会やドライブなどに出かける時に、職員が日頃の様子から波長の合う利用者同士の座席を検討することで、ユニットを超えた関りにも馴染みの関係性が深まっている。</li> <li>・日常的に1階の方が2階で馴染みの方とお話しながらお茶をすることもあり、若い日の</li> </ul>		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームで看取りをされた利用者の家族がお手紙を下さし、お礼のお電話などで近況を交換させて頂いたり、サービス終了後も馴染みの関係を保つことができています。</li> </ul>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は一人ひとりの何気ない言動から言葉にできていない思いをくみ取り、職員間で共有することを心がけている。</li> <li>・職員の様々な視点をカンファレンスを行う時に持ち寄ることで、本人本位な支援になるように努めている。</li> </ul>	<p>会話・表情から、気持ちを汲み取る意識を常に持つようにし、寂しさや不安な気持ちには、寄り添い、時間を取って外出をしたり居室で話すなど、丁寧な対応をしている。家族とも連携を密にして聞き取っている。</p>	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入所時家族に「基本シート」の記入をお願いしており その方らしい暮らしをして頂けるように、そのシートからの生活歴や趣味などの情報を活かしている。</li> <li>・ご本人との何気ない会話を交わすことから見出している。</li> </ul>		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の生活の様子をセンター方式D-4シート(記録用紙)に記録して、気持ちの浮き沈みや体調などを職員間で把握して共有している。</li> <li>・体調管理に関しては、療養手帳への記録をもとに主治医に報告している。</li> </ul>		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご本人の暮らしが豊かになるように、職員で日常的にモニタリングを行い記録用紙に記入している。</li> <li>・毎月行うユニット会議にてチーム内のそれぞれの職員の気づきを持ち寄り話し合い課題抽出を行い、現状に即した計画を作成している。</li> </ul>	<p>本人や家族の意向を基にセンター方式や24時間シートを活用し、詳細なアセスメントを行い作成している。毎月1回開催するユニット会議(パート職員含む)にてモニタリングを実施している。かかりつけ医、看護職員、歯科衛生士、リハビリ職と連携を密にしている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護計画に基づいた支援を行い、その時の様子をセンター方式(D-4)に記録をして、職員間で共有し実践の中での課題を新たな介護計画として見直しに活かしている。 ・その日の体調や把握の必要な事柄を、「申し送り表」に記録すると共に勤務交代時には、口頭の申し送りで、職員間の情報共有ができています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・法人内の居宅支援事業所や訪問介護などから得られる情報を支援に活かしている。		
29		○地域資源との協働 1人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・移動スーパーに毎週水曜日10:30に来て頂けるようお願いしており、利用者の中には好きなお菓子などを購入して居室にて食す時間を楽しみにとされている。 ・近くの美容室との交流があり、月遅れの雑誌などを頂く事もあり、楽しみにされている方がいる。 ・近隣の保育園との関りを継続している。(今年度はコロナの感染予防のため控えていた)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入所前のかかりつけ医の継続を基本とし、家族の意向に添った医療連携が取れている。 ・歯科に関しては連携医に随時相談や往診をお願いできる体制がある。また歯科医師の指導の下で歯科衛生士から口腔ケアや口腔体操などのアドバイスをもらえる環境がある。 ・「在宅療養手帳」を活用して、かかりつけ医と連携を図れる体制が整っている。	入所時に今までのかかりつけ医か施設の協力医かを選べる旨を本人・家族等に説明し希望を優先している。受診は、原則家族が同行している。家族が付き添えない場合は職員が代行し、その際必要な情報共有は、主に在宅療養手帳を活用し、日頃の様子や変化を医師、家族に伝え、情報共有に努めている。また、歯科医の協力で月一回往診がある。歯科衛生士の訪問も月一回ある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・非常勤看護師と情報を共有した連携が取れている。 ・訪問時には、様々な相談ができる体制にあり、主治医とも連携を取りながら健康管理ができる体制にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の意向をもとに入退院時には、かかりつけ医と医療機関の連携により迅速な対応ができています。</li> <li>・入院時は「介護サマリー」を作成することで情報提供を行っている。</li> <li>・退院支援に関しては、医療的処置が不要になった状況で、家族の意向確認を行い病院との連携を図りながら退院支援を行っている。</li> </ul>		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入所時には重度化の指針の説明をして同意をとっている。</li> <li>・契約の時などに終末期の意向を、様々な会話を交わしながら確認することを心がけており、ご家族間でそれぞれの思いを何気ない会話で話す機会を持って頂く事を伝えている。</li> <li>・利用者の体調に変化が見受けられる時には、早めに状況と可能性をお話するように心がけている。</li> <li>・看取りケアを行う時は、かかりつけ医と家族とのカンファレンスを行い、「看取り介護についての同意書」を作成している。</li> <li>・ご家族の意向にてかかりつけ医の指示のもと、訪問看護との医療連携を行い、看取りを行うケースもあった。</li> </ul>	入居時に本人、家族に重度化した際の指針を説明し同意をとり、その後は段階的に話し合いを持ち意向を確認している。本人の状態に変化が見られたら早い段階から医師や看護師の協力を得て本人・家族と話し合いを行い、改めて看取り介護の説明をした上で同意をとっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部研修にて緊急時の対応の研修を行い備えている。</li> <li>・緊急時の連絡網を作成している。</li> </ul>		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防避難訓練としては消防署の立ち合いをお願いして、地震や地震後の出火を想定した総合火災避難訓練と夜間想定避難訓練を行っている。近隣には前日に避難訓練実施の案内をポストに入れさせて頂いて協力をお願いしている。</li> <li>・近隣に住む職員などの緊急時の体制が整っている。</li> </ul>	消防署立ち合いの避難訓練や地震や地震後火災を想定した総合火災避難訓練(夜間想定含む)を実施している。訓練の際は、近隣住民に迷惑が掛からないよう前もって避難訓練実施の案内をポスティングしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの人格を尊重した言葉かけを行えるように心がけている。</li> <li>不適切なケアの事例研修を取り入れ、自身を見直す機会を設けると共に、職員間でお互いが確認できる関係性が持てるように努めている。</li> </ul>	<p>個々の職員の気付き力を高めるため、ユニット会議で不適切ケアの事例研修を行い、その内容を運営推進会議でさらに検討し合って職員の意識向上に努めている。現場でのプライバシー保護について、居室には必ずノックしてから入り、戸を閉めて対応する。また、職員の申し送りは目につかない場所で近づいて話す等心がけている。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりに伝わりやすい言葉を選び、自己決定できるような声かけをしている。</li> <li>自分の思いを言葉にすることが難しくなってきた方へも、何気ない行動や表情から思いがくみ取れるように日々努めている。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>食後に同じテーブルの方とお話をしたり新聞を読んだり、眠そうなお様子がある時には午睡の声をかけて案内したりと、その方らしい暮らしや習慣を大切にしている。</li> <li>入浴なども体調や気分を優先したり、散歩や外気浴などその方のその日の気分を優先した支援を心がけている。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>その日の気分や服を選んだり、着替えたりとおしゃれを楽しんでおられる方もいる。</li> <li>お化粧をされている方もおられ、その方らしい身だしなみを続けておられる。</li> <li>毎月1度理容師さんに来て頂き、髪染め・パーマ、お顔そりなど利用者の希望に添って行っている。</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節を感じて頂けるような献立を取り入れている。</li> <li>節分の巻き寿司やお彼岸のおはぎなど、利用者自身で作る楽しみと食べる楽しみが持てるようにしている。</li> <li>お誕生日月の利用者の好きなものをご本人お伺いして選んで頂く「お好み食」の日を作っている。</li> <li>おやつ時間の様々な季節に合わせたパフェは皆さんに喜んで頂いている。</li> </ul>	<p>食事作りでは、調理補助や机拭き、料理の盛り付け等利用者それぞれが自分のできることを手伝っている。行事食は節分の海苔巻や七夕の流しソーメン、お彼岸のおはぎを利用者も参加して作り、季節を感じて楽しんでもらっている。誕生日は「お好み食の日」として食べたいものをリクエストしてもらいメニューを決めるので楽しみにされている。おやつ作りも楽しみの一つとなっている。</p>	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の食事を「生活経過用表」に記録して、その方の健康管理に反映できるように努めている。</li> <li>・パン食の朝食時にヨーグルトを出したり、おやつ時間に飲むヨーグルトやバナナジュースなど便通に良い食品を積極的に取り入れている。</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔ケアを嚥下状況や口腔内の環境により、歯科衛生士にお願いして、専門的な口腔ケアのアドバイスのもと行っている事で、誤嚥予防ができています。</li> <li>・口腔ケアの習慣を大切に、ご本人が行える方には声をかけています。またお手伝いの必要な方や誤嚥の可能性のあらわれる方は、歯ブラシやスポンジを活用して清潔を保つようにしています。</li> <li>・義歯のある方は夜間はお預かりして、洗浄剤につけて清潔を維持している。</li> </ul>		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着かない様子や表情などを職員間で共有しながら、食事前などを目途に定期的に声をかけたり案内をしている。</li> <li>・排泄チェック表を活用することで、排泄パターンや見つけることができている。</li> </ul>	排泄チェック表を基に利用者個々の排泄パターンを把握した上で、利用者のその時々様子や表情を職員間で情報共有して支援している。できるだけトイレでの排泄を目指しており、定期的な声掛けは主に食事前だが、その際他の人にわからないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの生活習慣や腸内環境を理解しながら乳製品などを取り入れて、無理なく排泄できるように心がけている。</li> <li>・水分摂取の声をかけたり、体操などを行ってもらえるようにすることで、日々の快便につながるよう努めている。</li> <li>・排便の間隔などを主治医と共有して、緩下剤などの服用をしてもらう事で、無排便が続かないような支援を行っている。</li> </ul>		
45	(17)	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者のその時の体調や気持ちを考慮した声掛けを行っている。</li> <li>・お湯の温度や入浴剤など その方の好みに合わせた支援を行っている。</li> <li>・浴槽に入ることが困難になった方は、足浴をしたり肩などにお湯をかけたりすることで、身体が温まるように工夫をしている。</li> </ul>	入浴は、原則週3回で午前午後を通して本人が希望する時間としている。好みの温度や好みのお湯剤等各利用者の好みに合わせている。拒否がある場合は、タイミングをずらしたり日を変えたり、声掛けの仕方を工夫したり、どうして拒否されるのかを検討して無理強いすることなく、対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼食後からおやつまでの1時間程に午睡ができるような声をかけて、案内することで休息をとってもらっている。</li> <li>・就寝時に安心して休んで頂けるように、エアコンで温度調節をしたり濡れタオルなどを用意することで乾燥しないように配慮している。</li> </ul>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お薬に関しては、ご家族と契約されている薬局で処方してもらっている。</li> <li>・その薬局にて分包されたお薬を決まった時間に服用して頂く支援を行っている。</li> <li>・職員は薬局からの説明書を処方時や変更をしっかりと確認するようにしている。</li> <li>・服薬時の様子を職員間で検討してから主治医に相談して、一人ひとりの状態にあった形状や飲み方の工夫をしている。</li> </ul>		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2階リビングの模様替えを行い、コーヒーやパフェなど出して喫茶店のような雰囲気にするので、外出気分を味わって頂いている。</li> <li>・毎週水曜日には「とくし丸」という移動スーパーが自ホームの前に来ており、あんパンやクッキーなど自分の好みのお菓子を購入することができている。</li> </ul>		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染対策を取りながら春には近くの公園に桜や菜の花の散策、秋にはお弁当を持って紅葉狩りと、感染拡大状況を考慮しながらドライブなどに出かけたり、季節を感じて頂けるようにしている。</li> <li>・今年度は外出の自粛の影響もあり、ご家族とのお出かけも控えているが、基本的にはいつでもお出かけを楽しんで頂けるようにしている。</li> <li>・お天気の良い日には皆さんの体調等を確認しながら、日々に散歩に出かけている。</li> <li>・玄関先にベンチを設置して花壇の花のお世話をしたり、他者と談笑しながら日向ぼっこを楽しまれている。</li> </ul>	<p>コロナ禍で外出が難しい中、できることをしようと状況の変化に合わせて工夫している。特に近隣の散歩は、雨が上がったわずかな晴れ間も見逃さず散歩に出るなど少しでも利用者の気持ちが明るくなるように考えている。季節感を楽しめるお出かけやドライブにも感染症対策(マスクや手洗い等)を徹底し安全に配慮している。また、玄関先にベンチを設置して、花壇の花に触れたり日なたぼっこで外の空気に触れるようにしている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お買い物支援や移動スーパーで好きなものを購入して頂けるようにしている。</li> <li>・お財布を持っている方もいる。</li> </ul>		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話を持っている方もおられて、自身でご家族やご友人と自由にお話されている。</li> <li>・固定電話に ご家族やご友人からの電話がかかってくることもあり、馴染みの関係を継続されている。</li> <li>・年賀状を作成して家族に送ったり、手紙やはがきのやり取りが多くなっている。</li> <li>・ライン電話ができることをご案内させて頂き、希望のあったご家族とビデオ通話も行っている。</li> </ul>		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者それぞれの身体状況などに合わせた配置の工夫をしている。</li> <li>・季節を感じて頂けるような作品を展示している。</li> <li>・換気を行いながら、室温や湿度も心地よく過ごして頂けるようにしている。</li> </ul>	共用部分は、外からの光にも考慮し照明を夜間と昼間で調節する他、換気がよく行われており、落ち着いてくつろげる空間となっている。車椅子、手押し車等利用の利用者もあり、椅子やテーブルは少人数で広く使えるよう配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関エントランスに長椅子を設置して、一人になりたい時などの居場所作りができるようにしている。</li> <li>・食事を摂る場所と、ゆったりとテレビなどを見る事ができるソファ席の空間を作っている。</li> <li>・1階・2階と自由に行き来できることで、気の合う方とお茶を飲んだり、談笑する事ができている。</li> </ul>		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛用されていた家具などを持って来られており、そこでお化粧をしたり自分らしく過ごされている。</li> <li>・居室でお菓子をつまんだり、その方らしい時間を過ごされている。</li> <li>・居室はご家族の写真などが飾っていたり、お一人おひとりの居場所となっている。</li> </ul>	できるかぎり入居前と変わらない生活を送って頂くことを意識しており、家で使われていた馴染みの家具を持ってこられたり、家族の写真やプレゼントされたものを飾っている。それぞれが思い思いに工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手押し車を使用して居室とリビングを、自由に行き来できるように、配慮して工夫している。</li> <li>・居室やトイレなど表札などを、設置することでわかりやすく案内している。</li> </ul>		

自己評価および外部評価結果（なでしこ）

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域や社会とのかかわりを意識した理念を作り、職員に共有する為に朝礼で復唱する事で業務に反映していけるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣にお住まいの方の紹介による行事や移動スーパーでの買い物なども取り入れる事で地域交流の機会を持てるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の理解をより深めれるように、家族や地域の方の相談に対応できるような環境を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者の日常を広報誌などをもとに伝えている。また様々な視点での意見を取り入れることでサービスの向上に力を入れている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にてホームの日常を理解して頂くことで、良い協力関係を築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束の研修をすることで、職員全員が禁止行為を正しく理解して業務に活かしている。基本的に施錠は行っていないので、自由に出入りができる状態である。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員はどのような行動が虐待行為にあたるのかを理解している。毎年研修を行う事で理解を深めて防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の仕組みや利用している利用者についてユニット会議等で情報を共有できるようにしている。制度についての研修を行う事で理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に面談の機会を設け、契約後であっても疑問などがあれば、納得ができるように説明を行い理解していただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が意見や要望がある時はカンファレンスを行い、そこで得られた内容を会議で共有できるようにしている。要望は運営に反映できるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議を行っている。年に一度は上長との個別の面談の機会を設け意見を聞き、それを運営に反映できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員の個別ヒヤリングを行う事で正しく実績を理解できるように努めて居る。意見を取り入れ、より働きやすい環境になるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務状況や個別ヒヤリングからケアの力量を把握し、職員のレベルに合った外部の研修も積極的に参加できるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や勉強会での交流を通じて他の介護現場の状況を学ぶことで、サービスの向上に活かせるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の施設の見学、面談する事で不安等を傾聴し、ご本人の必要としている要望を理解したうえで、良い信頼関係づくりをしていけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在抱えている課題等は事前に時間をかけてカンファレンスを行い、互いに協力して支援のできる良い関係を築けるように、必要に応じて何度でもカンファレンスを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活に必要なペットや歩行器等の業者の紹介や、かかりつけ医など要望に応じて手配している。要望により有償のマッサージ等のサービスの利用できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本情報シートに書かれている生活歴、趣味、嗜好、思想等を理解し、日々のコミュニケーションで得られた情報をいかした関わりを持つことで良い関係を構築できている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話での連絡時等に日常生活の情報共有を行い、必要に応じて家族カンファレンスを行って、共に支えていける良い関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等と気軽にコミュニケーションができるように配慮している。馴染みの場所の関係が継続できるように家族にも協力していただき支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良好な関係を気付けるように、各個人の個性や尊厳を尊重して、平等性に欠けない支援ができるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了後も関係性を大切にしている。希望があれば相談や支援も随時受け付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に家族に記入していただいたアセスメントシートを基にして、生活歴などの把握に努めている。入居後は追記する形で現在の希望や意向の理解を深めていけるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、親戚、かかりつけ医等による情報収集を行い、これまでの生活を理解したうえで基本シートの作成にいかしていけるように最善を尽くしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者ごとに24時間シートを作成し、日々の生活、健康状態、精神状態を記入し変化に気づけるようにしている。そこで得られた情報から現状の把握に最善を尽くしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族カンファレンスやユニット会議等により、それぞれの視点から気付けた課題を話し意見を反映した介護計画とモニタリングを作成できるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は24時間シートや申し送り表に記録する事を徹底している。それらの記録を情報共有することで介護計画の見直しの際には活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に沿えるように、サービスの紹介や新規サービスなど必要に応じて柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練、消火訓練の実施をしている。地域住民の方より回覧頂く交番だよりを安全対策などの参考にさせて頂いたりとの良い協力関係が気づけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の意見を尊重して受診、往診を選択されている。かかりつけ医と利用者の体調の共有することで、良い関係を築きながら適切な医療を受けられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師が業務に携わっており、日常の状態の情報共有をすることで、適切な受診や看護が受けられる状態を作れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携はかかりつけ医を通して24時間迅速に行えるようにしている。入院時はご家族や入院先の相談員との協力する事で状況を把握し今後の方針について話し合いをする際に役立っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約前に重度化した場合を想定した説明をしている。事前に重度化、終末期の方針については話し合いをしている。話し合った内容をもとに地域の関係者と共に支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的に消防署による避難訓練や事故時の初期対応などの指導を受けており、実践時に活かせるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署による避難訓練の指導を受ける事で、事前に避難場所などの把握につとめている。災害時には近場に住む職員が迅速に対応できるように、事前に話し合いを行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各職員は基本情報を把握し人格を尊重した言葉かけを行っている。プライバシーに関わる事柄は、他者に聞かれないように室内にて話をするなど配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いに寄り添い、話を傾聴することで希望をくみ取ることに努めている。自己決定しやすい環境作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事もお入居者のペースを一番に心がけ、快適に過ごせるように改善を重ねながら支援している。個々の利用者の希望に沿った日常を送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一回は訪問理美容が設定されている。自分らしい服を着ることができるように日常生活から好みの把握ができるように努め、一緒に服装を選び、おしゃれを楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒におやつを手作りし、自分らしいトッピングをすることで食事を楽しめるような工夫をしている。日常の会話から好み等を把握し誕生日の月には、その人の好きな食事を提供できる日を設けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分の摂取量、排便、排尿を日々記録し日常の健康管理の目安としている。水分の摂取が必要と判断した場合は日中にこまめに水分補給をしてもらえるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。歯ブラシを上手に動かすことの難しい方などは、ご本人の口腔ケア後に仕上げ磨きを行っている。夜間は義歯を洗浄剤につけ清潔を維持する支援をしている。必要に応じ歯科衛生士をお願いして清潔の保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄回数の記録をとり、排泄リズムを把握し体調管理をすることで目安としている。把握した排泄リズムからトイレの声掛けが必要な方は時間を決めて声掛けを行い自立にむけた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操を日課としている。十分な水分の提供も心掛けている。排便時にコールなどで呼んでもらい便の確認をしたり、必要のある方は排泄時に付き添うことで、排泄状況を把握して、主治医につなげ緩下剤などの服用の支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	当日の体調や予定にも配慮しつつ週に3回の入浴をしている。個別に希望に合わせて午前や午後の入浴を行っている。入浴剤を使用する事で、お湯の色や香りを楽しみながら入浴されている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	常に御自身の生活習慣のリズムで過ごしていただいている。日中の休息も自由にとって頂けるようにしている。夜間に安心して眠れるように、その方に適した日中の活動量を目指す支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明書などを参考に内服薬の目的や副作用等周知をユニット会議で共有できるように徹底している。変更時には申し送りノートに記入し、常に情報の共有に努めている。状態の変化等は24時間シートや申し送り表に記録する事で把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	基本情報よりご本人の習慣や趣味を大切にしながら楽しめる役割や、気分転換になるような環境を作り心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者に負担がないような散歩コースを設定して、外出の機会を設けている。年間を通して季節感を楽しんで頂けるレクリエーションを設けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週に一度、移動スーパーが施設の前に来るのでその際に好みの物を購入するなど、自身の希望に応じて使えるように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の負担にならない時間を確認しながら、お電話にて話せる時間を調整している。手紙や年賀状等のやり取りやテレビ電話を通じて友好関係を維持できるように支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節をテーマにしたディスプレイを利用者と一緒に製作して壁に貼り、四季を感じ取れるようにしている。室内の光量を時間に合わせ調節し、室温と湿度の管理をする事で心地よく過ごすことのできる環境作りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルーム、食堂は好きな席に座って頂けるようにしている。気の合う利用者と自由に会話を楽しんで頂けるような空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具類は出来るだけ以前から使用していた物を持ち込んでもらう事で、安心して過ごせる居心地の良い環境作りを心掛けている。必要な家具などは本人の好みに合った物を選ぶようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや扉などは利用しやすい物を使用している。トイレや浴室に使用状況が外から分かるように掛札を作成したり、居室には表札を掛ける等して分かりやすくすることで、自身で把握しやすい工夫をしている。		